

森林が持つ、新たな魅力の発見 －林研女性会議研修会を開催－

1 はじめに

農山村地域において、女性は生産活動や組織活動を通じて、地域活性化に大きく貢献する担い手として期待が寄せられています。

そこで、林業技術センターでは、森林・林業にかかわる女性相互の連携を密にし、会員相互の資質向上とグループ活動の活性化を図るため、岩手県林研女性会議研修会を開催しました。

研修会は、去る1月27日(水)、林業技術センターを会場として開催され、県内から3つの女性林研グループなど12名が参加しました。

2 NPO法人日本メイプル協会の活動

午前の部は、NPO法人日本メイプル協会 事務局長 川又正人氏((有)川又林業 代表取締役、地域けん引型林業経営体)による講演会を開催しました。

同協会は、「いわての森林づくり県民税」事業を活用し、視覚障害者のための「森の探検隊」活動を実践しています。「森の探検隊」活動は、視覚障害を持つ方を対象として年間を通じて森林と触れ合う体験活動であり、春には山菜摘みや、冬にはスノーシューを履いての林内散策など多種多様なイベントを行っていらっしゃるとのことでした。



川又正人氏による講演

講演はユーモアにあふれる内容で、参加者は川又さんの語り口にすっかり魅了されています。

最後に、川又さんから「森林が持つ魅力は誰もが感じることができる。木材生産だけではない森林・林業の魅力、これからも様々な人に発信していきたい」との言葉があり、参加者はこれまでの自分達の活動の軌跡と重ね、思いを深めた様子でした。

3 女性林研グループによる集団討議

午後の部は、女性グループと林業普及指導員による集団討議を行いました。

討議のテーマは、①グループ活動の現状と課題、②林業女性グループの今後の活動のあり方とし、それぞれのグループから発表いただき意見を交わしました。

各グループの共通課題として、会員の高齢化による活動の縮小傾向が挙げられましたが、その一方で、「私たちの活動は林業と直結するのかと悩んでいたが、今日の講演を聞いて林業は裾野が広く自分たちの活動も一つの分野なのだ」と自信を持つことができた、「数年後、近くに道の駅ができる。これに向け、グループ活動を活発化し産直スペースに出店できるよう行政に働きかけていきたい。」といった非常に前向きな意見が多く出され、これからの活動に向けて弾みがついたものと思われます。

当センター普及班では、このような研修会などを通じて、地域の林業を支える林業研究グループの活動を、引き続き支援していきます。



集団討議